A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術　共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	合唱

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分

複数申請の状況(該当するものを選択してください。)　※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)
※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	しんこくりつげきじょううんえいざいだん 公益財団法人　新国立劇場運営財団	団体ウェブサイトURL https://www.nntt.jac.go.jp/	
代表者職・氏名	理事長　銭谷眞美		
制作団体所在地	〒 151-0071	最寄り駅(バス停)	京王新線　初台駅
	東京都渋谷区本町1丁目1番1号		
電話番号	03－5351－3011(代表)		
ふりがな 公演団体名	しんこくりつげきじょうがっしょうだん 新国立劇場合唱団	団体ウェブサイトURL https://www.nntt.jac.go.jp/opera/chorus/	
代表者職・氏名	理事長　銭谷眞美 (公益財団法人　新国立劇場運営財団)		
公演団体所在地	〒 151-0071	最寄り駅(バス停)	京王新線　初台駅
	東京都渋谷区本町1丁目1番1号		
制作団体　設立年月	1993年4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	会長:十倉 雅和 理事長:銭谷　眞美 芸術監督:大野 和士(オペラ)	会長1名、顧問7名、評議員25名、理事20名(うち理事長1名、常務理事3名)、監事2名、会計監査人2名、芸術監督3名、研修所長3名、職員148名等	
事務体制 事務(制作)専任担当者の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	高橋　徹
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	総務部長　山下　登

本申請にかかる連絡先 （メールアドレス）	takahashi_t0822@nntt.jac.go.jp onoi_k1144@nntt.jac.go.jp gr_nntt_zaimukikaku@nntt.jac.go.jp

制作団体沿革	1993年4月　財団法人第二国立劇場運営財団設立 1995年4月　劇場名が新国立劇場と決定し、同時に名称を財団法人新国立劇場運営財団と改める。 1997年10月　新国立劇場オペラ「建・TAKERU」にて開場、以後オペラ・舞踊・演劇といった現代舞台芸術の自主公演を継続的に上演する。 1998年4月　1998/99シーズンより新国立劇場合唱団を組織、オペラ「蝶々夫人」出演 2012年4月　公益財団法人に移行。公益財団法人新国立劇場運営財団となる		
学校等における公演実績	2008年6月、2011年12月、2015年11月　三鷹市明星学園小学校音楽鑑賞会 2013年5月　松本市内全中学校　芸術鑑賞会 2015年6月　上田市内高等学校　芸術鑑賞会 2016年6月　長野市内高等学校　芸術鑑賞会 2017年5月　長野市内中学校　芸術鑑賞会 2018年6月　松本市内小学校　芸術鑑賞会 2009年度より現在まで、文化庁本事業に参加		
特別支援学校等における公演実績	2010年1月　広島県広島特別支援学校 2012年9月　青森県立青森若葉養護学校 2013年2月　北海道白糠養護学校 2015年9月　神奈川県立中原養護学校、愛知県立豊橋特別支援学校 2016年6月　神奈川県立中原養護学校 2017年11月　滋賀県立野洲養護学校		
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://link.directcloud.jp/Vl99pTnsmu	
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	有効期限2023/10/26までです。
		PW:	DY7G7JAZ

公演・ワークショップの内容　【公演団体名　新国立劇場合唱団　】

対象		
	小学生(低学年)	○
	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○
	中学生	○

企画名	舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）合唱特別コンサート
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	新国立劇場合唱団　舞台芸術等総合支援事業プログラム（小学校　低学年・中学年・高学年　及び中学生向け） 【プログラム構成】 1. 校歌演奏 2. 日本の歌・世界の歌・オペラの世界 3. 学校との合同演奏　学校校歌、学校希望曲など 公演時間　90　分

著作権、上演権利等の許諾状況				
各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり		該当コンテンツ名	各歌唱曲
該当事項がある場合	権利者名	各著作権者	許諾確認状況	採択後手続き予定

演目概要	◎各校の校歌演奏（混声四部合唱に編曲）：演奏会の導入に当該校の校歌を合唱で演奏することによって、プログラムへの関心を高めます。身近にある歌が合唱になることによって変化する事によって歌の多様性を感じていただくことも狙いのひとつとします。 ◎日本の歌・世界の歌・オペラの世界 児童に親しみのある曲を合唱で聴くことによって歌うことの楽しみを感じていただきます。高い演奏技術で世界的に評価されている「新国立劇場合唱団」の演奏で様々な合唱を堪能していただきます。その演奏をもとに歌や合唱の歴史、クラシック音楽やオペラの話を取り入れていきます。 新国立劇場合唱団の演奏の基盤である「オペラ」においては、小学生に対して「歌いながらする劇」というような解説、中学生に対しては歴史・成り立ちを簡単に説明するとともに、オペラが「音楽」「演技」「言葉」などの複合要素で構成されている舞台芸術であることも理解していただきます。 〇曲目：童歌「ほたるこい」（女声合唱） 民謡「ソーラン節」（男声合唱） 日本の名歌（混声合唱） ベートーヴェン作曲「交響曲第九番」より抜粋 マスカーニ作曲「カヴァレリア・ルスティカーナ」より　オレンジの花は香り（混声） ワーグナー作曲「さまよえるオランダ人」より　糸紡ぎの合唱（女声） ウェーバー作曲「魔弾の射手」より　狩人の合唱（男声） ヴェルディ作曲「椿姫」より　乾杯の歌（混声） ◎総合ワークショップ～合同演奏：事前に行うワークショップを基に「全校生徒」で各校の「校歌」の歌唱指導、合唱指導を行います。事前のワークショップから引き続き発声方法の指導、　その後に各校生徒児童にとって将来にわたって歌われるであろう「校歌」（各校の事情により愛唱歌でも可能）の歌唱、合唱指導となります。 ◎アンコール曲（曲目未定） ※曲目は変更の可能性があります。
演目選択理由	歌の歴史的な解説や様々な種類の声を使った楽曲を横断的に取り上げることにより、音楽表現に興味をもっていただき、更にオペラでは「舞台芸術」を理解し、表現することの意味や音楽を聴く楽しみを体験してもらいたいと考えております。
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	演奏会の冒頭では「校歌」を混声四部合唱に編曲して演奏いたします。プログラム後半の総合ワークショップ～合同演奏では各校校歌（愛唱歌も可能）を、指導しながら一緒に演奏することにより、より身近に音楽の素晴らしさを体験していただきます。
出演者	指揮：冨平恭平・水戸博之　ピアノ：平塚洋子・古瀬安子　合唱：新国立劇場合唱団　30名（メンバー表別添）

本公演従事予定者数(1公演あたり)※ドライバー等訪問する業者人数含む		運搬	
出演者：32 名			積載量：1 t
スタッフ：3 名			車　長：4.7 m
合　計：35 名			台　数：1 台

本公演 会場設営の所要時間 （タイムスケジュール） の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		2時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～11時	13時～14時30分	10分	14時30分 ～15時30分	16時

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。（大幅な変更は認められません）	6月	7月	8月	9月	10月
	15日				
	11月	12月	1月	計	15日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	10名～1,000名
		鑑賞人数目安	10名～1,000名

公演に係るビジュアルイメージ
（舞台の規模や演出がわかる写真）

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【公演団体名　新国立劇場合唱団　】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10名～1,000名
ワークショップ実施形態及び内容	ワークショップは本公演で指揮をする指揮者がお話とピアノを担当し、4名の声楽家とともに実施いたします。声楽家はソプラノ／アルト／テノール／バスが各1名で混声合唱を演奏する基本編成となっています。 ワークショップ前半は40分程度。女性の高い声（ソプラノ）はオペラではどのような役を演じ歌唱するのか、それと対比する低い声（アルト）はどのような役柄を演じるのか。男性の高い声（テノール）は女性とどのような関係性を持つことがあるのか、低い声（バス）はテノールやソプラノとどのような関係で登場することが多いのか、などの解説を歌詞の内容を交えながら指揮者とやり取りをします。この後に新国立劇場合唱団が内外で高い評価を得ている「ベートーヴェン／交響曲第九番」を題材にして、合唱の仕組み・魅力をお話いたします。 10分から15分程度の休憩を挟み後半（40分程度）となります。普段学校で歌っている校歌を用いて発声練習を行います。その場で軽く体操をしていただき体をほぐし、児童・生徒（もしくは先生）の指揮・伴奏で校歌を歌っていただきます。その歌唱にコメントをしつつ、プロの声楽家のように声を出すには、という導入から指揮者の三澤洋史作曲「発声のこころえ」という曲を、演技を交え歌唱します。この曲には「姿勢」・「呼吸」・「響き」というきれいな歌声を出すための重要なポイントが含まれており、引き続き指揮者が生徒・児童に歌唱テクニックの向上をわかりやすく解説していきます。声楽家たちは児童・生徒の間に入っていき、声をかけて指導を行います。ポイントを復唱しながら再度校歌の演奏をしていただき、顔の表情、歌詞の重要性、校歌の意義をお話します。本公演までポイントの復習を促すことで日常的に校歌演奏のイメージを広げてもらうようにします。 最後に混声合唱で親しみのある曲を演奏し、本公演での本格的な合唱演奏に期待していただくようにして終了します。		
ワークショップのねらい	姿勢や顔の表情、呼吸方法から説明をして基本的な発声の指導を行い、わかりやすい解説、圧倒的な声量と高度な技術を手本として指導してまいります。通常の話し声とオペラの発声との違い、本公演で取り上げる校歌や愛唱歌を題材として自分自身が楽しく歌うこと、仲間と歌うことが楽しめるように指導を行います。自分が声を出すこと、仲間のパートを意識すること、「一緒にものごとを作り上げることの楽しさ」というような話題もあわせて行います。本公演の総合ワークショップが非常に大きな位置を占めるプログラムとなっておりますが、その導入となる事前ワークショップと仕上げとなる本公演に含まれる総合ワークショップにより、その後の校内行事でも「校歌」（愛唱歌）を楽しく歌うことが出来るようになっていただき、学校生活を生き生きと過ごせるような体験をしてもらうよう考えております。		
その他ワークショップに関する特記事項等			

本事業への申請理由　【公演団体名　新国立劇場合唱団　】

本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫	**①本事業に対する取り組み姿勢** 公益財団法人新国立劇場運営財団ではオペラ、バレエ、現代舞踊、演劇の公演を一年間を通して上演しています。しかしながら新国立劇場での上演作品は装置の規模も大きく、特にオペラにおいては上演にかかる費用も高額になってしまうという状況もあり、東京の劇場を離れての上演を数多く出来ていないのが現状であります。そのような状況下ではありますが当財団は世界に問う優れた舞台作品を出すのみではなく、次代の担い手である子どもたちにこそ優れた舞台芸術を提供していくべきであるという姿勢を保持し、オペラは「高校生のためのオペラ鑑賞教室」、バレエは「こどものためのバレエ劇場」などの上演を手掛けており、演劇についても家族で観劇出来る作品上演を実施しております。 装置を伴う舞台作品の上演は新国立劇場以外の会場を使用する場合においても未だ地域の劇場や会館を使用しての活動のみであり、全国への普及活動については十分な活動とは言い難く、学校施設内での上演に至っておりません。そのような現状を踏まえた上で本事業において生徒児童へ提供出来る手段として「合唱」を選択いたしました。世界最高水準の芸術性を持ち、ここ数年来、劇場のオペラ公演のみならず、国内外のオーケストラや劇場・会館から高い評価を得ている新国立劇場合唱団をもって、本事業に取り組むことにより若い世代の記憶に残る演奏を行い、同時に音楽を奏でることにより生徒児童の自発性を促すことを目指しています。 **②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫** 本事業において大切にしたいことは生徒児童達に高い水準の音楽を提供することであると同時に本事業実施校や地域における音楽芸術・舞台芸術に対する認知度を高めることも大事にしなくてはなりません。学校や教育委員会と実演団体は物理的距離があるためにここ数年で盛んになっているメールという通信方法でのやり取りが多くなりがちですが、資料の受け渡しなどで行うメール文章の連絡事務のやりとりのみでは多くの専門用語がある舞台芸術の進行を十分に把握しきれず混乱が生じがちです。その上、学校体育館という限られた条件での舞台設営の準備を理解することが難しいというのが実情です。上記の事を踏まえてみますと単純なことではありますが「電話」でやり取りをおこなうことで即時に問題解決の糸口を探せるようにこころがけております。その際には可能な限り内容をかみ砕いた表現を用い、また通常の学校のカリキュラムや行事にうまく同調し、学校に負担をかけないように工夫をしています。なお、学校ごとに会場条件が少しずつ違いますので事前に舞台スタッフが体育館の状況を確認し、準備から開催まで公演がスムーズに進行するようにチェックをします。